

# 環境負荷低減と機能維持に配慮した病院施設の提案

馳 平 心 東京電力株式会社 千葉支店 営業部 ソリューション第二グループ 課長代理

**要約** 病院施設は医療サービスを提供するにあたり、緊急性、公共性が高いいかなる場合においても不断のサービス提供が重要であると共に、エネルギー消費密度が高く資源エネルギー多消費型施設と考えられている。また一方では、環境社会を構成する一員として地球温暖化・廃棄物問題等における環境負荷低減に向けた取り組みを行うことも大変重要である。本稿ではエネルギー供給事業者の立場から「3つの循環（Cycle）と継続（Continuity）」をキーワードとして、地球温暖化・廃棄物問題等における環境負荷低減と病院機能維持に配慮した「サステナブルホスピタル」の実現を目指した提案を行った。

## 1. はじめに

病院施設では医療サービスの提供にあたり、電気・ガス等の資源エネルギーや医療資材、人材等が大量に投入される。これらの資源・エネルギーは医療活動という本来の役割を果たした後 CO<sub>2</sub>、排ガス、排水、廃棄物等の環境負荷へと変化し、一部には地球温暖化問題、廃棄物問題等を引き起こす原因となるものもある。

また医療は緊急性、公共性が高く震災や災害等いかなる場合においても不断のサービスを提供する一方で環境社会を構成する一員として、環境負荷低減に向けた取り組みを行なうことも重要である。

東京電力はエネルギー供給事業者の立場から地球温

暖化・廃棄物問題等における環境負荷低減と機能維持に配慮した「サステナブルホスピタル」の実現を目差した提案を行っている。

## 2. 環境負荷に対する病院施設の現状

国内では2008年に「エネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネルギー法）」が改正され事業所単位の規制から事業者単位への規制に強化される一方で、東京都においては「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例（環境確保条例）」の改正により大規模事業所のCO<sub>2</sub>総量削減義務と排出量取引制度が導入された。

また昨年政府は2020年度において1990年度比

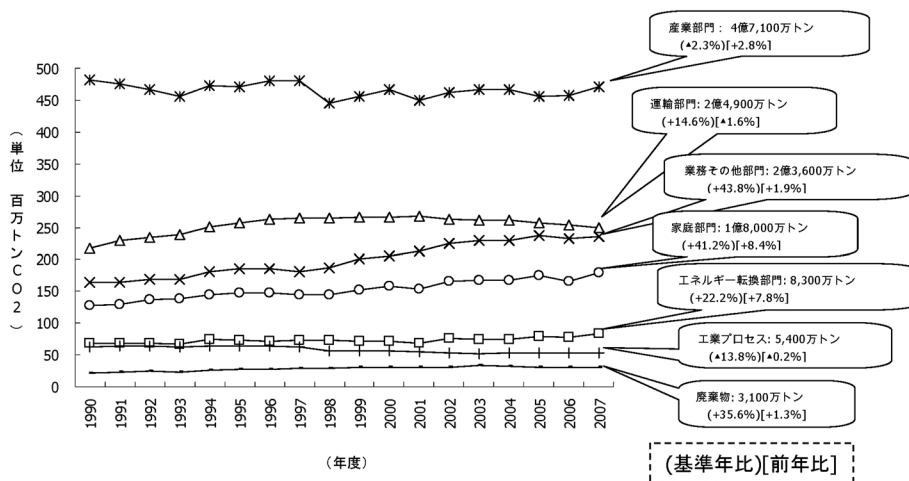


図 1 部門別 CO<sub>2</sub> 排出量の推移<sup>1)</sup>